AQ 一般質問ダイジェスト

9月定例会

村上 勝 議員の質問

鳥獣被害対策と農家支援

Q イノシシや猿、熊の出没、被害が深刻化する中、耕作放棄地の拡大を防ぐため、忌避シートなど新たな防除資材の導入支援や既存補助制度の柔軟な運用についての所見を伺う。

A 猿のGPS首輪装着による行動把握や追い払い活動を進める。対策は捕獲、侵入防止、生息環境管理を総合的に進めることが肝要であり、提案の資材支援等も含め、引き続き効果的な対策を研究し、適宜対応する。

総合運動公園の維持管理

Q 球場の改修や物価高騰を踏まえ、持続可能な運営に向けて利用料金や減免制度の見直し、遊具等の早期修繕を行う考えはあるか。

A 現時点で減免制度を見直す考えはない。改修後のスコアボードや人工芝の維持管理費はこれまでと同程度に抑えられるため、利用料は据え置く方針。遊具や破損照明は安全点検や優先度を踏まえ、来年度以降順次修繕を行う。



民家へも出没するイノシシ



大規模改修の続く総合運動公園

ごみステーション整備支援

Q 自治会の負担軽減やカラス被害防止に向け、近隣市町のような購入費補助や省スペース型ボックスの導入支援に取り組む考えはあるか。

A 現在は自治会等で整備、管理してもらっているが、近隣自治体の支援内容や被害状況を確認し、本市における支援の在り方を研究していく。

長谷部 良明 議員の質問

三条市の財政について

Q 財政調整基金の運用状況はどうか。

A 令和7年度の財政調整基金を含めた基金全体の運用益は約1億2000万円。財政調整基金の運用については、安全性を最優先とした上で、定期預金や国債などによる短期運用をしている。これからも金利動向や資金収支を踏まえ、安定的かつ効率的な基金運用を継続できるように組織体制を整えていく。

元旦マラソン大会について

Q 大会の終了と今後の在り方について伺う。

A 安全な大会運営を行うための人員確保が困難であることから、終了することとなったが、したびレッジ駅伝にフリーの部を新設し、市民の走る機会を確保している。今後、団体等から三条市元旦マラソン大会の名称等を継続したいという申し出があった場合、市として共催、後援について判断していく。

部活動の地域展開について

Q 地域クラブに移行することで何が変わるのか。活動場所や指導者について伺う。

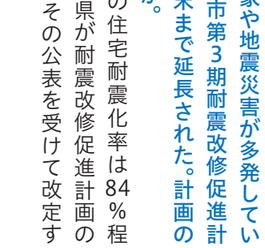
A 地域クラブは従来の学校教育活動を離れ、多様な主体が運営等をする社会教育活動へと移行するもの。活動場所や指導者、運営管理等については、地域指導者やスポーツ協会と共に、持続可能な体制を構築していく。

西村 邦明 議員の質問

中央公民館の駐車場不足

Q 約70台駐車可能だが、大ホールを利用する場合、駐車場が足りない。三之町病院の駐車場を50台分貸してもらっても全く足りない。せっかく来てくれた人が帰ってしまった経験を何度もしている。まちやまの南側スペースが空いており、以前、借用を依頼したら、まちやまのイベントで使うからと断られた。この場所を年間何回利用するのか。駐車場として利用しても、旧三条小学校のイメージが損なわれることはない。駐車場不足を解決し、利便性を高めてほしいがどうか。

A 南側スペースについて、昨年度は10回のイベント利用があった。中央公民館の利用者数に見合う駐車場が整備されていないことは承知している。まちやまの南側スペースは、公民館利用者も利用できることから、両施設の利用状況を調査した上で整備について検討したい。



まちやまの南側スペース

北三条駅前の交互通行

Q 現在、北三条駅周辺の都市計画道路の見直しが進められているが、なぜ駅から真っすぐに拡幅しないのか。

A 北三条駅から本町四丁目交差点までの区間について、交互通行が可能となるよう道路改良することは、嵐北、嵐南のアクセスや駅周辺の利便性の向上につながるものと認識している。機会を捉えて県に伝えていく。

岡本 康佑 議員の質問

障がい者の雇用促進、地方創生を目的とした包括連携協定と関連する政策

Q ★ロースタリー型障がい者雇用支援サービスBYSNを誘致して4年。目標の雇用100名は達成したが、雇用者数だけでなく、定着率等の市独自の指標で質を検証すべきでは。また、障がい特性に起因する利用者間トラブルが生じた際、本人が管理者を介さず安心して相談できる第三者窓口等のバックアップ体制の強化も必要では。市の見解を伺う。

A 利用企業と本人との雇用契約であり、市独自の指標による検証は考えていない。トラブル対応は、利用企業、株式会社スタートライン、市がそれぞれの役割に応じて対応し、相談があれば福祉課も専門職による支援を行う。相談先については市委託の相談支援事業所を周知する。今後、令和5年制定のともまち条例の基本理念を新たな協定に反映し、法定雇用率達成にとどまらず、障がい者本人が能力を発揮し、望む人生を選択できるまちづくりを進めたい。

就職氷河期世代への就労支援策の必要性

Q 就職氷河期世代の就労の受け皿として技能労務職を採用すべきではないか。

A 人材の確保は一層厳しい。必要な人材を確保していくためには、従来の採用方法にとらわれることなく、さまざまな方策を検討する必要がある。

小林 誠 議員の質問

防災対応について

Q 異常気象や地震災害が多発している。三条市第3期耐震改修促進計画が今年度末まで延長された。計画の現状はどうか。

A 三条市の住宅耐震化率は84％程度。現在県が耐震改修促進計画の改定作業中。その公表を受けて改定する。

Q 減災の取り組みと避難所整備等の★スフィア基準の進捗状況はどうか。

A 水害対応総合防災訓練や市のホームページ等で啓発等を行い、減災に取り組んでいる。避難所は、全中学校と小学校2校、義務教育学校にハイブリッド型冷暖房システムを導入。避難所の環境改善に取り組んでいる。スフィア基準を踏まえ、備品の購入と質の向上を図る。

Q 高齢化が進む中、降雪の対策も急務。取り組みはどうか。

A 高齢者に対し、社会福祉協議会が屋根の雪下ろし費用助成および玄関、玄関先の除雪ボランティアの派遣等を実施している。

公共交通について

Q 三条市の公共交通は、種別が違えば料金も違う仕組み。選択肢がない下田地域では、割高で利用が困難。住民にアンケートを取ってはどうか。

A 下田地域における高齢者の集い等でのヒアリングや他自治体の事例研究を通じ、地域に適した方策を検討している。一定の形が見えた段階で在り方を示したい。アンケートの実施予定はない。

平井 恵里子 議員の質問

災害時の物資体制と避難所の環境整備等について

Q 備蓄状況について伺う。

A 市の1次、2次避難所の体育館の倉庫などにパーテーションや簡易ベッド、おむつ、排便収納袋等を備蓄している。パーテーション等の追加購入など備蓄の充実に取り組んでいる。